

卒業生による

講演会



中一対象

令和二年九月三日(木)

小笠原流礼法宗家直門師範

幸田優子氏(十期生)

幸田さまは例年一学期の中学一年オリエンテーションで新入生にマナー講習を行って頂いておりましたが、今年度は一学期にはできず九月三日に実施することができました。相手への思いやりの気持ちを表現すること、身だしなみや表情から相手に伝わる思い、お辞儀の仕方、残心、先語後礼、ドゴール元フランス大統領のフィンガーボウルのエピソードを交えながら他人を思いやる行為などのお話しも頂きました。

講演は礼儀作法としてすべきことを挙げるだけでなく、どのように礼儀作法ができたのか、お辞儀の実演などわかりやすくお話しして頂きました。講演後は生徒達から礼儀作法や椅子の座り方についても意識し、学校生活を送りたいという言葉が多く聞かれました。(安部)



中一対象

令和二年十月四日(木)

(株)テルミールソリューションズ

代表取締役社長

山本光平氏(七期生)

中学一年生にとって大先輩でもある山本さんの講演会。

今年も、「夢を叶えるお手伝い」というテーマをもとに、予想外の発見、失敗してもそこから何かを学び取り成功に結びつける気持ちの大切さを、会社員時代のヨットやボートの営業、そこからのカジキ釣り、さらには家業の美容院と、実体験を交えて楽しく話されていました。また、毛髪を分析することによりガン、アルツハイマー、糖尿病などの疾患を知ることのできる先端医療の話では、中学一年生でも飽きることない内容と、興味を引き出すトークで生徒たちも熱心に聞き入っていました。(佐藤)

中三対象

令和三年二月九日(火)

有限会社ソリスナビタス

代表取締役

原島敏郎氏(七期生)

「自分は何のために勉強しているのだろう。」毎日授業を受け、二十分テストに苦戦する中学三年生の生徒たちの悩みに、大学生の就職支援やビジネスコーチングに携わる原島氏が応え、進路選択や職業選択に際しての大切な心構え、モチベーションアップにつながる考え方を伝授されました。

増々加速するグローバル化、AIが台頭する時代に、私達は正しい知識を持ち、物事を適切に判断する力を養わなければなりません。原島氏は「その下地となる教養と高い倫理観を、学校生活を通してしっかりと身に

着けてほしい。」と語られました。

大先輩の温かい言葉にふれ、生徒たちが、自分の将来を明るく前向きに思い描いてくれることを願います。(坂本)

高一対象

令和二年六月二十七日(土)

視聴覚室にて、高一対象の進路講演会が開催されました。お話いただいたのは教育実習生の三名の先生方です。



西原彩音さんは中学生のとき古典に目覚め、大学では平家物語を研究しています。自分の興味の芽を摘まずにしっかりと育てて欲しいと話されました。丸山大輔君は在学中から数学が大好きで確率論を専攻しています。証明問題でも、本当にそうなのか自分で調べて欲しいと話されました。山上洋平君は様々な言語を比較研究しています。大学で何を研究したいのかを明確にして進路を考えるよう話されました。高一生が進路を選択する上でたいへん貴重なお話を頂き、ありがとうございました。(柴山)

講演者の言葉



神戸大・文 四回生
西原 彩音さん (50期)

高校一年生になり、進路について悩み始めた人が多いのではないかと思います。行き詰まったら、一度自分自身と向き合ってみましょう。今までの生活の中で何かに

対して「面白い」と感じた経験はありませんか? その「面白い」を膨らませて色々調べていくと、きっと「これを学びたい!」というものに出会えるはずです。将来後悔しないように、今のうちに思う存分悩んで、進路を決めて欲しいと思います。



神戸大・理 四回生
丸山 大輔さん (50期)

高校一年生の皆さんには「嫌い」な科目を「苦手」な科目に変える努力をしてほしいと思います。ここでは、「嫌い」は勉強する気のないもの、「苦手」は勉強しているけれど結果がついてこないものを意味します。今は「苦手」でも勉強を続けていればいつか必ず「得意」に変わります。「嫌い」は「得意」にはなりません。英語が「嫌い」なまま受験生となり、克服に苦労した私からの戒めです。



佛教大・文 四回生
山上 洋平さん (42期)

これから文理選択をし、大学を目指していく皆様は不安を抱えていることでしょう。大学で何を本当に学びたいか、自分の目指す将来は何かを真剣に考えなければならぬでしょう。安易な選択はさけるようにしてください。興味を色々もってください。この二点を忘れなければ、大学での生活は楽しくなれると確信しています。色々悩むことになるでしょうがその悩みこそが重要なのです。皆様の将来が明るく輝けるものとなるよう願っています。